

# 音楽授業の「導入」における現状と課題

—鑑賞と言葉に着目して—

鈴木慎一郎\*・廣富恵美子\*\*・大野桂\*\*\*

## Observations of Introduction in Music Tuition : Focused on Appreciation and Word

SUZUKI Shinichiro, HIROTOMI Emiko, OHNO Katsura

キーワード：鑑賞，言葉，導入，音楽授業，グラウンデッド・セオリー・アプローチ

Key words: appreciation, word, introduction, music tuition, grounded theory approach

### はじめに

本稿の目的は、音楽授業の「導入」において、鑑賞活動を取り入れ、その過程での児童・生徒と教師の言葉に着目し、学習課題を生起する過程を明らかにすることである。なお、ここでの「導入」とは、「導入→展開→整理」で構成される授業における学習指導段階の位置付けで使用する<sup>1</sup>。

2004（平成14）年に公表されたPISA2003の日本の結果は、読解リテラシーの平均得点はOECD平均程度で、順位も8位（2000年調査）から14位に後退した<sup>2</sup>。このこともあり、2008（平成20）年の学習指導要領改訂では「言語活動の充実」がうたわれた。音楽に関しては鑑賞領域において「感じ取ったことを言葉で表すなどの活動を位置付け、楽曲や演奏の楽しさに気付いたり、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いたりする能力が高まるよう改善」（小学校）<sup>3</sup>、「音楽に関する言葉などを用いながら、音楽に対して、生徒が、根拠をもって自分なりに批評することのできるような力を育成」（中学校）<sup>4</sup>と示される。

この改訂を受け、音楽の授業においても話し合い活動ならびにワークシートや感想等を書く活動等が積極的に取り入れられ、実践が展開されている。その一方、言語活動を重視すると、国語の能力の高い学習者がよい評価を得ることになり、評価の方法の面での課題や<sup>5</sup>、表現活動の減少に伴う音楽表現力の低下の課題等も指摘される。

ところで、学術研究において、問いを立てることが重要とされているのと同様に<sup>6</sup>、学校教育の授業においても、問いを生む、つまり、学習課題を立てることが大切である。通常、学習課題は、授業の導入において教師によって提示されることが多いが、子どもたち自らの協議によって立てられることが理想とされる。愛知教育大学附属岡崎小学校では、子どもの意識を掘り起こしたり、教材との出合わせ方を工夫したり、かかわり合いを設定したりすることによって、子どもたちの問いを

---

\* 鳥取大学地域学部地域教育学科

\*\* 鳥取大学附属中学校

\*\*\* 鳥取大学附属小学校

立てる支援を行っている<sup>7</sup>。今後、アクティブラーニングの導入が求められているため、能動的な学習はさらに期待される。では、音楽の授業において、教材との出会わせ方としてどのような方法が効果的であるのか。巻口礼子は、中学校の美術の授業において、導入時に鑑賞活動を取り入れることにより、生徒たちの関心・意欲が高まり、その後に展開される表現活動に効果的な成果があったと指摘する<sup>8</sup>。そこで本稿でも、導入において鑑賞活動を取り入れ、その過程での児童・生徒と教師の言葉に着目し、学習課題が生起されるまでの過程を丁寧に検証していきたい。

## 1. 方法

### (1) 分析対象

表1の通り、鳥取大学附属小学校、鳥取大学附属中学校において授業実践をした<sup>9</sup>。その後作成した授業記録を、現象の構造とプロセスを明らかにするグラウンデッド・セオリー・アプローチ (grounded theory approach: 以下, G T Aと略記) で分析し、導入における学習課題が生起されるまでの過程を解明する<sup>10</sup>。

表1 分析対象の授業実践

学校	日時	題材名	実践者
附属中学校	2015 (平成 27) 年 7 月 2 日 10 時 5 分～10 時 55 分	楽曲と向き合う ～《フーガ短調》を通して～	廣富恵美子
附属小学校	2015 (平成 27) 年 10 月 24 日 9 時 30 分～10 時 15 分	もっと日本の音楽に親しもう パート2～歌曲に浸って～	大野 桂

### (2) 分析方法

本稿では、授業記録における導入の箇所を対象とし、児童・生徒ならびに教師の発話ごとにデータを区切って切片化し、切片ごとに、プロパティ (特性: データを解釈するための視点) とディメンション (次元: データをあるプロパティからみたときの範囲) を挙げてラベル名を付けた。そして似たラベル名を持つ切片や同じプロパティを持つ切片をまとめてカテゴリーとし、プロパティやディメンションを基に名前を付け、カテゴリー名が各切片のデータと対応しているかどうかを確認した。その後カテゴリー関連図を作成した。

## 2. 結果と考察

### (1) 中学校 《フーガ短調》

第2学年を対象とした題材名「楽曲と向き合う」～《フーガ短調》を通して～は、以下の通り、実践された。

#### 1) 題材の目標

- ・パイプオルガンの音色に親しむことができる。
- ・主題がさまざまな声部に移り変わるフーガ形式のおもしろさを感じ取ることができる。
- ・旋律と旋律が絡み合うおもしろさについて理解を深めることができる。

## 2) 学習計画 (全2時間)

第1次・《フーガト短調》の楽曲そのものや、作曲家および演奏形態について知る。

- ・「この曲に引きつけられるのはどうしてだろう」という問いに対して自分の言葉で説明する。  
(本時)

第2次・聴く人を引きつける楽曲の魅力について考え、楽譜をもとに考察・分析する。

- ・フーガ形式について知る。

## 3) 本時の目標

- ・自分の思いや意図を持ち、「この曲に引きつけられるのはどうしてだろう」というテーマで、楽曲の魅力について、自分の考えをもとに考察し、言葉にすることができる。
- ・考えや意見を交流しあうことで、他者の意見を知り、自分自身の聴き方を深めることができる。

## 4) 本時の展開

導入	1 「バッハ」と「パイプオルガン」について知る。 2 《フーガト短調》を聴き、直前に配付されたアンケートに答える。 この曲に引きつけられるのはどうしてだろう。
展開	3 「この曲に引きつけられるのはどうしてか」自分の考えを付箋に書く。 4 グループで互いの意見を交換する。 5 各グループごとに意見を発表する。
整理	6 各グループから出た意見をもとに、もう一度《フーガト短調》を聴く。 7 本時のまとめと次時の予告

以下、導入について検証する。表2は、授業開始直後から第1回目のCD鑑賞までのデータである<sup>11</sup>。バッハ<sup>12</sup>の人物画を提示し、「これだけで名前があてられる人」とクイズ形式で始められ、生徒の関心を引きつけようと試みられている。生徒は「バッハ」と即答し、その後、教師によるバッハの解説がなされる。バッハの生涯というよりは、使用された楽器である「パイプオルガン」に関する解説が中心となっている。「今からパイプオルガンで演奏されるバッハさんの曲をかけますが、聴いたことがあるかな」との通り、《フーガト短調》の鑑賞経験の有無を問い掛けている。

表2 データと分析例

番号	データ	主なプロパティと ディメンション	ラベル名
1	T: はい、では、前向いてください。はい、前を向いてください。ええっと、それから今日はこれからここにある人の人物画が映る(人物画提示)。この人の作曲した曲について学習しますが、これだけで名前が当てられる人。	指示: 前を向く 提示: 人物画 発問: 作曲者名	肖像画の提示と作曲者名の発問
2	C: バッハでしょう(声が小さい)。	発言: バッハ	発言
3	T: ああ、もう少しください。はい。	指示: つけたし	補足指示
4	C: バッハです。	発言: バッハ	発言

5	<p>T : 正解。はい、バッハです。ドイツ生まれの作曲家で、去年ビバルディさんの学習しましたが、ビバルディさんと同じバロック時代という時代に活躍をした作曲家の人です。ええっと、フルネームを書いておきましょうかね (板書)。はい、見てます。はい、ヨハン・ゼバスティアン・バッハという、フルネームはヨハン・ゼバスティアン・バッハです。で、バッハさんの作曲した曲を今までに聴いたことがある、もしくは演奏したことがあるという人。はい、おろしてください。きょうはバッハさんの曲なんだけども、この楽器で演奏している曲について学習をしていきます。これ何の楽器かわかります。何でしょうかね。何かぴかぴか光ってますけど、何でしょうか。この何か筒がいっぱいあるんですけど、何でしょうか。パイプオルガンという楽器です。で、パイプオルガンという楽器は、多分みんな、えって言うと思うんだけど、どこの国で生まれたのか。大昔です、紀元前3世紀に今のエジプトで生まれました。で、その後、ヨーロッパでいろんな改良が加えられてキリスト教とともに発展するんですけど、これはもう発展し終わり形というか、最初はですね、これもまだ最初とは言いがたいというか、もっとこれより最初があるんだけど、少ない鍵盤数に少ないパイプの数で、そのパイプに空気を送り込んで音を鳴らす楽器だったんですけど、もっとたくさんの音域で弾きたいとか、空気を使っているような音色を出してみたいなということで、鍵盤の数がこれ2段になり、3段になり、それから足にも鍵盤があり、パイプの数もふえていってこんな感じになりというようなふうに進化していったパイプオルガンという楽器で演奏されます。で、このころはちょっとまだピアノっていうのはなかったんで、このパイプオルガン、この鍵盤楽器のほうが主流でした。では、実際に曲を聴いてみたいんですが、聴きつつアンケートにちょっと御協力をお願いします。当番、誰。</p>	<p>正解：バッハ        バッハ：ドイツ生まれ、ヴィヴァルディと同じ、バロック時代、ヨハン・ゼバスティアン        発問：楽器        正解：パイプオルガン        パイプオルガン：紀元前3世紀、エジプト、キリスト教とともに発展、特徴        指示：アンケート</p>	<p>バッハとパイプオルガンについての解説、アンケート調査の依頼</p>
6	<p>C : ○○さんです。</p>	<p>発言：当番の人</p>	
7	<p>T : で、名前をまず書きましょう。余ったところ、ください。はい。今からパイプオルガンで演奏されるバッハさんの曲をかけますが、聴いたことがあるかな、ないかなあ、どちらかに丸をしてください。で、あるっていう人は、いつ聴いたんかなっていうのをその下の四角の中に書いてもらえたらうれしいです。そしてさらに、曲名を知っているか知らないかもお答えください。知っていたら下の長方形の四角の中に書いてください。で、聴いたことがないよという人は、この曲の印象を後で簡単にでいいので書いてもらえたらと思いますが、まあ聴いた瞬間に多分あるかないはわかると思うので、いいですか。じゃあ、かけたいと思います。ちょっと待ってね。</p>	<p>指示：アンケート        発問：聴取経験</p>	<p>聴取経験についての発問</p>

注 C : 生徒, T : 教師, ( ) : 行為。

第1回目の鑑賞後のデータを表3に示す。この際に行ったアンケート調査の結果については、図1に示した通り、この曲を聴いたことがあるが48%（16名）、ないが52%（17名）であった。

表3 データと分析例

番号	データ	主なプロパティとディメンション	ラベル名
8	T：聴いたことあった人（10名程度の生徒挙手）。あっ、降ろして。いつ聴いたんだろう。誰か言えます、いつ聴いたか。あれっ、わからん。聴いたことあった人。窓際、はい、〇〇、いつ聴いた。	発問：聴取経験 指示：指名	聴取経験についての発問
9	C：聴いたけど、わかんない。	発言：不明	曖昧な発言
10	T：わかんない。わかんないけど聴いたことがある。後ろの、はい。	指示：指名	指名
11	C：小学生のときに聴きました。	発言：小学生のとき	小学生での聴取
12	T：聴きました。はい、アンケート集めようかな（回収）。今日はアンケート答えながらということにしてしまったので、曲自体は聴こえてましたか、大丈夫ですか。聴けた。ええっと、では、ちょっとアンケートを見ると、聴いたことがある。小学校5年生のときに調べた。ああ、家で聴いた。家で聴いた。ううん、いつか忘れたけど家で聴いた。ああ、お母さんの車で聴いた。すごいな、車でこれ流れるんだ、すごいな。ええっと、ユーチューブでこの曲の替え歌を聴きました。あっ、今笑った人知るとるだろう、この替え歌。ちょっと知ってる人、知ってる人（数名の生徒挙手）。あっ、わかりました、はい。友達が歌っていた。えっ、〇〇さん。	指示：アンケートの回収 アンケートの抜粋：小学校5年生、家、母親の車内、ユーチューブ、替え歌 発問：替え歌	アンケート調査の抜粋紹介
13	C：僕も友達とかで。	発言：友達	聴取経験の発言
14	T：友達が歌った。何って歌った。	発問：替え歌	替え歌の発問
15	C：えっ、いや、鼻唄で。	発言：鼻歌	替え歌の特徴
16	T：どんなふうに、どんなふうに、鼻唄で。あれっ、何か言葉がありましたか、ふうんとかでしたか。	発問：替え歌	替え歌の発問
17	C：何かふうんって。	発言：鼻歌	替え歌の特徴
18	T：どんな感じがいな、どんな感じ。はい、ちょっともう一回最初の部分聴こうかな。何かみんな書くのに一生懸命だったので。はい、今度は何もありませんから気楽に聴いてください。	指示：曲想	曲想に着目した鑑賞への指示

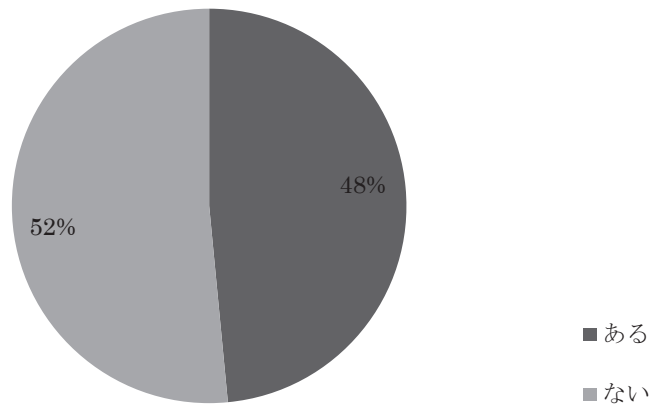


図1 この曲を聞いたことがあったか

表4は、第2回目の鑑賞後のデータである。「替え歌で知らない人も知っている人も、替え歌知っている人もすごいな、じいって聴いとるが。で、初めて聴く人もじいって聴いとるし」と鑑賞態度を称賛している。それに続き、「すごく集中してて、何か引き込まれるのかなあなんて思ったんですけど」「この曲は、何かその、じゃあぐうって聴いてた理由は何ですか」「この曲に引き込まれた理由は何ですか」と教師側から学習課題を提示している。生徒の発言から生起された学習課題ではないが、生徒たちの鑑賞態度を教師が的確に捉え、学習課題へと結び付けている。

表4 データと分析例

番号	データ	主なプロパティとディメンション	ラベル名
19	T：替え歌で知らない人も知ってる人も、替え歌知ってる人もすごいな、じいって聴いとるが。で、初めて聴く人もじいって聴いとるし、すごく曲に集中してて、何か引き込まれてるのかなあなんて思ったんですけど、そんなことはない。あれっ、そうでもない。この曲は、何かその、じゃあぐうって聴いてた理由は何ですか。言いかえると、この曲に引き込まれた理由は何ですか、自分の理由。はい、さっき配った付箋に名前と理由をちょっと書いてみようか。はい、どうぞ。	称賛：全生徒、集中して鑑賞 発問：この曲に引き込まれた理由	鑑賞態度への称賛と学習課題の提示
20	C：(付箋に記入)。T：(机間巡視)	活動：理由を記入	引き込まれた理由の記入
21	T：そうですか。できた。書けたでしょうか。書けた人(大部分の生徒挙手)。はい。もうちょっとの人(数名の生徒挙手)。はい、わかりました。どうしてぐうって引き込まれて	指示：机の移動	グループ発表に向けての指示

	聴いてしまうのかなあっていう質問ですけど、できましたか。じゃあ、今からグループになって、自分の考えをグループの人に発表をしてもらいたいと思います。で、机の形は今こうなってますけど、前から2列ずつで縦向きにこのようにしてこうやって座ってください。いいですか、ここまでできたら、次の説明します（机移動）。		
22	T：はい、どうぞ。はい、では、先生が前もって白い紙を置いた人から時計回りに意見を発表して行ってください。で、同じような意見だったら、うんとね、付箋をその白い紙に張っていくんですけど、まず最初の人をぺたって張るが、発表した後にな。その後発表した人が似てたら、同じような場所に張ってください。違う理由だったら、ちょっと離れた場所に張って分類してみましようか。はい、大体5分ぐらいでできるかな。はい、では、最初の人から発表してください。どうぞ。	指示：グループ発表	グループ発表に向けての指示

図2は、表2, 3, 4に基づいて作成したカテゴリ関連図である。生徒の発言は少なく、教師のリードにより、学習が展開していることが分かる。しかし、生徒の聴取経験を問い、生徒たちのこれまでの生活経験から鑑賞活動を展開し、クラシック音楽との接点を探りながら、学習の導入を図っている。また、生徒たちの鑑賞態度をすかさず褒め、ポジティブな雰囲気の中で学習課題を提示している。

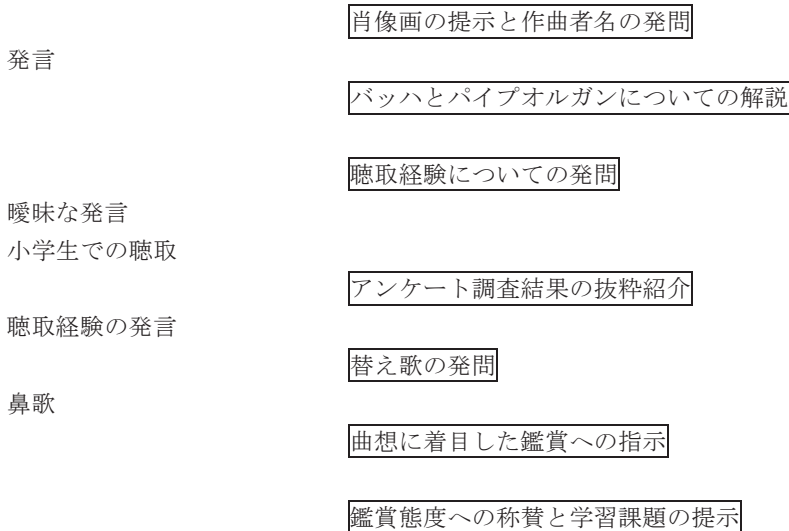


図2 中学校のカテゴリ関連図



## (2) 小学校 《花》

第6学年を対象とする題材名「もっと日本の音楽に親しもう パート2～歌曲に浸って～」は、以下の通り、実践された。

### 1) 題材の目標

○歌詞と旋律が一体となって生み出す曲想を味わいながら聴いたり、思いや意図をもって歌ったりする。

- ・詩と音楽が一体となった曲想を味わいながら聴いたり、語感を生かして歌う活動に主体的に取り組んだりする。(音楽への関心・意欲・態度)
- ・言葉のまとまりや語感と旋律とのかかわり、歌詞の表す情景や気持ちを感じ取り、曲想を生かした表現の仕方を工夫することができる。(音楽表現の創意工夫)
- ・言葉のまとまりや語感、重なり合う旋律の特徴を生かしながら響きのある声で歌うことができる。(音楽表現の技能)
- ・日本の歌曲の詩や旋律の美しさ、合唱形態の違いが生み出すそれぞれのよさを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを味わいながら聴くことができる。(鑑賞の能力)

### 2) 学習計画 (全7時間)

第1次 言葉と旋律の美しさを感じ取りながら日本の歌曲を味わう。

第1時 歌曲は詩と旋律が大きくかかっていると感じ取る。

第2時 歌曲のすばらしさと《花》のすばらしさを感じ取る。(本時)

第2次 言葉のまとまりや語感を感じ取りながら、曲想を味わいながら「心のうた」を聴いたり、歌ったりする。

第1時 言葉のまとまりや語感を感じ取りながら「心のうた」を聴いたり歌ったりする。

第2時 曲想を味わいながら学級で選んだ「心のうた」を歌う。

第3時 曲想を味わいながら学級で選んだ「心のうた」を思いをもって工夫して歌う。

第4時 それぞれのグループの「心のうた」を歌ったり聴いたりする。

第3次 これまで出会った日本のうたを振り返り、題材のまとめをする。

### 3) 本時の目標

- ・聴いたり、歌ったりする活動を通して《花》のすばらしさを感じ取る。

### 4) 本時の展開

導入	1 《花》《箱根八里》の歌詞が表す情景を想像しながらCDを聴き、今日のめあてを確認する。 聴いて歌って感じ取ろう! 《花》のすばらしさ
展開	2 《花》のすばらしさを見つける。 3 お気に入りのフレーズを見つけて理由を考える。 4 言葉と旋律を味わいながらお気に入りのフレーズをそれぞれが歌い、《花》を完成させる。
整理	5 歌曲のすばらしさを味わいながら《花》を聴き、振り返りをする。



以下、導入について検証する。表5は、授業開始直後から《箱根八里》鑑賞する前までのデータである。前時に児童に尋ねた滝廉太郎作曲の《荒城の月》《箱根八里》《花》<sup>13</sup>の中から一番好きな曲の集計結果を第3位から紹介し、前時の復習を兼ねながら、本時の学習へ意識を向けようと工夫されている(図3)。最初に「みんなに人気だった曲、2曲をもっともっとしっかり勉強していこうかなと思っています。その後で、もっと絞って1曲にぐっと迫っていきたいと思います」と本時の見通しを述べている。そして「今日は、超有名なこの3曲が、今こんな形になって歌い継がれているのですよっていうのを聴いてもらいます」と教師側から提示している。

表5 データと分析例

番号	データ	主なプロパティとディメンション	ラベル名
1	T：前回、出合ってきてもらった滝廉太郎さんと、それから、3曲をきっちり聴いてみました。この曲も「これがいいなあって」書いてあったんですけど、今日は、チャンチャチャーン、みんなに人気だった曲、2曲をもっともっとしっかり勉強していこうかなと思っています。その後で、もっと絞って1曲にぐっと迫っていきたいと思います。では、皆さんのいいがいただけました。第3位は、3位じゃないです。第3位が《荒城の月》。	前時：滝廉太郎 本時：2曲→1曲に迫って学習 人気3位：《荒城の月》	前時の復習と本時の見通し、 第3位の紹介
2	C：ああ。	反応：同調	同調
3	T：第2位が、実ははこっちだったんですよ（黒板の《箱根八里》の歌詞を指す）。	人気2位：《箱根八里》	第2位の紹介
4	C：え。	反応：驚き	驚き
5	T：それで、皆さんの中の、おお、いいねが一番多かったのは《花》だったんですね。	人気1位：《花》	第1位の紹介
6	C：いえい。	反応：歓声	歓声
7	T：いえいか、わからんけど。さあ、この前は、さっき先生が弾いとったみたいに、ピアノの旋律で作曲をしていたときの時代の旋律だけで楽しんでもらいました。今日はね、超有名なこの3曲が、今こんな形になって歌い継がれているのですよっていうのを聴いてもらいます。では、まず《箱根八里》から。気がついたこと、2つ以上言えるようにしっかり耳を澄ませて聴いてください。1番だけ。	前時：ピアノの主旋律 本時：3曲の鑑賞 指示：《箱根八里》の鑑賞を通して気付いたこと	《箱根八里》鑑賞に向けての指示

注 C：児童，T：教師，( )：行為。

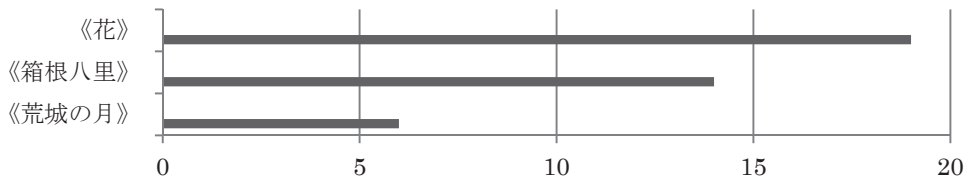


図3 滝廉太郎人気ランキング

《箱根八里》鑑賞直後のデータが表6である<sup>14</sup>。男声二部合唱の特徴を児童の発言から拾い上げている。

表6 データと分析例

番号	データ	主なプロパティとディメンション	ラベル名
8	はい、4列目起立。さあ、気が付いたこと言ってもらいましょう。はい、4列目、時間がないですから、はい。では〇〇さんから、どうぞ。	指示：指名	指名
9	声が響いている。	声：響く	《箱根八里》特徴
10	ほうほう、ほうほう。なるほど。はい、次どうぞ。	反応：受容 指示：指名	指名
11	1人じゃなくて、何人かで。	演奏者：複数人	《箱根八里》特徴
12	おお。	反応：感嘆	感嘆
13	〇〇さんと同じで、いろいろな人と歌っていました。	演奏者：複数人	《箱根八里》特徴
14	おお、はい。	反応：感嘆	感嘆
15	〇〇さんと同じで、1人じゃなくて、声とか大勢で。	演奏者：複数人	《箱根八里》特徴
16	はい、どうぞ。	指示：指名	指名
17	男の人の歌。	演奏者：男声	《箱根八里》特徴
18	よう気が付いたですね。はい。	反応：称賛	称賛
19	二部合唱になっています。	形態：二部合唱	《箱根八里》特徴
20	わあ、ほほほほほ。合唱、2部合唱って、これかな、これかな。はい。そのほか、はい、〇〇さん	反応：称賛 形態：二部合唱	二部合唱の確認
21	力強い感じがします。	曲想：力強い	《箱根八里》特徴
22	ほお。なるほどね。はい、これ以外で。なら、〇〇さん、これ以外でないですか。これ以外で気がついたよっていう人いませんか。これに注目して重ねる、はい、どうぞ。	反応：受容 指示：指名	受容と指示、指名
23	テンポが速い。	テンポ：速い	《箱根八里》特徴
24	はいはいはい。そうだね。この前より速かったかもしれません。では次、《花》です。今こういう形で歌われています。	反応：同意 指示：《花》	同意と指示

女声二部合唱である《花》鑑賞直後のデータが表7である<sup>15</sup>。《箱根八里》と《花》の比較を行い、児童の発言をつないで授業を展開している。「この共通点をいっぱい言ってくれました」と称賛し、「歌曲ね、合唱曲の共通のすばらしさかなということがわかってくれたなと思います」と児童の意識の整理をし、児童の一番人気である点も触れた上で、《花》へと意識を向かわせている。《花》に

ついて組歌《四季》(1900) (《花》《納涼》《月》《雪》)の一部である点について簡単に解説した後、「何で《花》だけが4つの中で超有名になったのだろうかというのを迫ってみたい」と教師の側から学習課題を提示する。

表7 データと分析例

番号	データ	主なプロパティと ディメンション	ラベル名
25	はい、3列目起立。これは今度は〇〇さんからお願いします。	指示：指名	指名
26	さっきの《箱根八里》は男の人が歌ってたんですけど、今の《花》は女の人が歌ってました。	《箱根八里》：男声 《花》：女声	《箱根八里》と《花》の比較
27	はい、どうぞ。	指示：指名	指名
28	2部合唱で、大きい声と小さな声の音が重なっていました。	形態：二部合唱 声：大小	《花》特徴
29	ほう。	反応：受容	受容
30	《箱根八里》と同じで、たくさんの人で歌ってました。	同じ：《箱根八里》 演奏者：複数人	《箱根八里》と《花》の比較
31	はあ、はい。	反応：受容	受容
32	男の人と女の人とは違うんですけど、「箱根八里」とは違うんですけど、何人も一緒に歌っているっていうのが同じでした。	違い：男声、女声 演奏者：複数人	《箱根八里》と《花》の比較
33	ふんふんふん。はい、どうぞ。	反応：受容	受容
34	〇〇さんと同じで、何人も多い人数で歌ってました。	演奏者：複数人	《花》特徴
35	はい。	反応：受容	受容
36	ゆったりとした感じでした。	曲想：ゆったり	《花》特徴
37	はい、どうぞ。	指示：指名	指名
38	2人以上の人が歌ってました。	演奏者：複数人	《花》特徴
39	はい。	反応：受容	受容
40	《箱根八里》とは違って、優しい感じでした。	違い：《箱根八里》 曲想：優しい	《箱根八里》と《花》の比較
41	はい。そのほか、ここにはないよっていうこと気がついたよっていう人。はい、どうぞ。〇〇さん。	指示：指名	指名
42	《箱根八里》のほうは、曲が始まると同時に歌い始めていたけど、《花》のほうは前奏がありました。	《箱根八里》：前奏なし 《花》：前奏あり	《箱根八里》と《花》の比較
43	そうでしたね。前奏、そして伴奏がついてましたね。というふうに、今はちょっと進化した形でつくり変えられてきています。この共通点をいっぱい言ってくれましたが、「合唱だよ、何人も歌っているよ」、こういったことが歌曲ね、合唱曲の共通のすばらしさかなということがわかって	反応：受容 特徴：前奏、伴奏 演奏者：複数人 歌曲、合唱曲：共通のすばらしさ	《花》の特徴の整理と学習課題の提示

<p>くれたなと思います。じゃあ次ですよ。皆さんの一番人気のいいねの《花》については、実は歌曲、歌曲集っていつて、何かね、組曲になつとるんです。《四季》っていう名前の4つのうちの1つなのに、この《花》だけがとってとっても親しまれて、今、歌い継がれているんですね。この《花》について、何で《花》だけが4つの中で超有名になったのだろうなっていうことを迫ってみたいなと思います。では、1番から3番まで、今のCDを1回だけ聴いてみますので、何か、何でだろ？、秘密があるんですよ、この曲だけは。いきますよ。ヒントなしで1回聴いて、いいですか。</p>	<p>《花》:「四季」の一部、超有名 発問:《花》のひみつ</p>	
--	---------------------------------------	--

図4は、表5, 6, 7に基づいて作成したカテゴリー関連図である。《箱根八里》《花》の鑑賞後、児童の発言を通して、各曲の特徴を整理し、学習課題へとつなげている。指名していることも影響しているが、児童の発言がテンポよく続き、各曲の特徴も児童の言葉で、声、演奏者、形態、曲想と多様な視点から捉えることができた。また、男声二部合唱の《箱根八里》と女声二部合唱の《花》の比較考察も行いながら、滝廉太郎の歌曲の特徴を学んでいる。

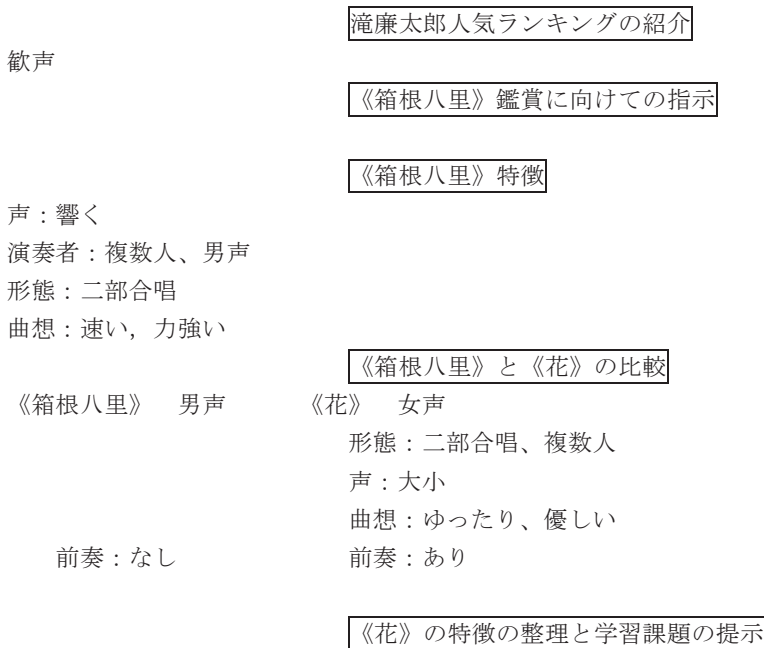


図4 小学校のカテゴリー関連図

## おわりに

本稿では、授業の導入における鑑賞活動での児童・生徒と教師の言葉に着目して、学習課題が生起されるまでの過程を検討した。

中学校、小学校とも、学習課題は、教師の側からの提示ではあった。しかし、学習課題を立ち上げるまでに、児童、生徒の意識をくみ取り、さらには関心意欲を高めようとする工夫が見られた。また、授業の導入において鑑賞活動を位置付けたことにより、児童・生徒が最初に感じた感覚や初発の感想を大切に授業展開を可能とした。

今回取り上げた《フーガト短調》はバロック時代の絶対音楽、《花》は明治時代に作曲された歌曲と、学校音楽教育の教材として定着しているものの、決して児童・生徒が飛びつくような楽曲ではない。また、今回、DVDではなく、CDを使用したため、聴覚を中心としたシンプルな鑑賞活動であった。しかし、児童・生徒たちは、私語や居眠りをする事なく、スピーカーから流れる音楽に集中していた。まさに、楽曲に引きつけられ、楽曲のすばらしさを感じていた。

本稿では、紙幅の関係もあり、学習課題の生起までを対象とし、鑑賞したことをどう言葉に表現したかといった点についてまでは含めていない。この点については今後の課題としたい。

中学校「この曲に引きつけられるのはどうしてだろう」、小学校「聴いて歌って感じ取ろう！《花》のすばらしさ」、これらの学習課題は、学習指導案立案時の際、何度も協議を重ねた上で出来上がったものである。ただ、一つ心配があった。もし生徒が引きつけられなかったり、児童がすばらしさを感じなかったりした鑑賞活動に終わった場合であった。しかしながら、幸いにも生徒、児童は、楽曲や学習課題に真剣に向き合うことができた。今後は、生徒から「この曲に引きつけられるのはどうしてだろう」、児童から「どうして《花》はこんなにすばらしいのかな」というつぶやきを引き出すことができるように実践研究を積み上げていきたい。

## 付記

本稿は、平成27年度鳥取大学学長裁量経費「附属学校園との教育連携実践プロジェクト研究」（研究代表者：土井康作）の助成を受けた。

## 注

- 1 内田松夫『教科学習指導案作成の考え方・進め方』黎明書房、1995年、31頁。
- 2 「PISA型『読解力』」を意識した取り組みの事例として、横浜国立大学教育人間学部附属横浜中学校、福井大学教育地域科学部附属中学校が挙げられる。遠藤貴広「第5章 日本の場合：PISAの受け止め方に見る学校の能力観の多様性」松下佳代編著『「新しい能力」は教育を変えるか：学力・リテラシー・コンピューター』ミネルヴァ書房、2010年、181-202頁。
- 3 文部科学省『小学校学習指導要領解説 音楽編』2008年、6頁。
- 4 文部科学省『中学校学習指導要領解説 音楽編』2008年、6頁。
- 5 三村真弓・光田龍太郎・松前良昌・桑田一也・吉富巧修・高旗健次・藤井恵子「中学校における音楽科の学力を確かなものとする教育プログラムの開発（3）：中学生の批評能力及び鑑賞能力に着目して」『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第38号、2010年、167頁。  
西島央「第1章 音楽：学校に音楽を取り戻すために」小松佳代子編著『周辺教科の逆襲』叢文社、2012年、15頁。
- 6 荻谷剛彦『知的複眼思考法：誰でも持っている創造力のスケッチ』講談社、2002年、176-268頁。

- 7 愛知教育大学附属岡崎小学校『新たな自分を創る子ども：心豊かに総合 学び豊かに教科』明治図書，2000年，144-152頁。
- 8 巻口礼子「図画工作・美術 表現活動に向かう内発的動機を引き出す導入の工夫：鑑賞によって内面を表現する意欲を高める指導」『教育実践研究』第24集，上越教育大学学校教育実践研究センター，2014年，151-156頁。
- 9 I Cレコーダーとビデオカメラによって記録した。
- 10 戈木クレイグヒル滋子『グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いたデータ収集法』新曜社，2014年。
- 11 教育芸術社の教師用指導書のCDを使用，ヘムルート・ヴァルヒャ演奏。
- 12 Bach, Johann Sebastian 1685-1750, 独。
- 13 土井晚翠（1871-1952）作詞・滝廉太郎（1879-1903）作曲《荒城の月》，鳥居忱（1853-1917）作詞・滝廉太郎作曲《箱根八里》，武島羽衣（1872-1967）作詞・滝廉太郎作曲《花》。
- 14 教育芸術社の教師用指導書のCDを使用，栗友会合唱団演奏。
- 15 教育芸術社の教師用指導書のCDを使用，クロスロードレディース演奏。

(2016年1月29日受付，2016年2月3日受理)